# 令和2年度公益活動報告及び今後の展望

公益活動推進センター長　**髙比良　光治**

## １．はじめに

令和２年10月26日、第203回国会における前菅内閣総理大臣所信表明演説において、①新型コロナウィルス対策と経済の両立、②デジタル社会の実現、③グリーン社会の実現、④活力ある地方創り、⑤安心の社会保障、⑥東日本大震災からの復興、⑦災害対策等についての方針が示されました。中でも③グリーン社会の実現において、2050 年までに、わが国の温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが宣言されました。

公益活動推進センター（以下「公益センター」という。）は、これまで低炭素社会の実現に向けた活動の推進を福岡県地球温暖化防止活動推進センター、エコアクション 21 地域事務局、九州グリーン購入ネットワーク事務局の活動を通して行ってきており、公益センターへの社会からの期待も益々大きくなるものと考えています。

公益センターでは、このほか水・大気・生物等の環境に関する情報発信、環境教育等も公益活動の一環として行っており、以下にこれらの活動を紹介するとともに、今後、2050 年カーボンニュートラルを目指すにあたっての当センターの課題や展望について整理しました。

## ２．公益活動推進センターとは

公益センターでは、当協会の公益事業として、次世代を担う子供たちやその保護者、企業で働く人々へ環境学習の場を提供するとともに、事業者や市民の方々が推し進める省エネルギー活動の支援等を行っています。公益センターは、現在、福岡県地球温暖化防止活動推進センター、エコアクション 21（EA21）地域事務局、環境情報啓発センター及び九州グリーン購入ネットワーク（九州 GPN Green Purchasing Network）事務局の 4 部門から構成されています。以下に、各部門の役割と令和２年度の活動内容を紹介します。

## ３．各部門の役割と活動内容

### ３．１　環境情報啓発センター

環境情報啓発センター（以下「啓発センター」という。）では、主に環境教育に関わる講座や観察会の企画・運営、またはそのサポート等を行っています。

令和 2 年度は、福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」の運営を前年度に引き続き受託し、来館者への展示案内、実験の指導、川魚やカブトガニ等の生物展示等を行いました。また、新型コロナウィルス感染防止への対応のため、緊急事態宣言中の４月上旬から５月中旬までは臨時休館となり、講座の開催も 6 月からとなりましたが、講師をお願いしている大学の先生、環境関連の NPO 団体等の御協力のもと各種講座を実施し（**写真１、表１**）、参加者から好評をいただきました。特に、環境 DNA 学会と共同で実施した「環境 DNA で調べる魚類の多様性」の講座は、南三陸ネイチャーセンター

写真１「割れないシャボン玉をつくろう」講座の様子

表1 令和2年度にまもるーむ福岡で実施した講座

| 分　類 | 講座名 | 講師名（所属）_敬称略 |
|---|---|---|
| まもるーむ大学 | 火山の仕組みと役割～列島の地下で何が起こってる？～ | 柳哮（元九州大学） |
| | 不思議に満ちた海の環境と生物たち | 高田浩二（元福山大学） |
| 特別講座 | ヒトとお魚の違いを見つけよう～私の体の中にいる魚～（参加者入れ替え2回講座） | 高田浩二（元福山大学） |
| | 海辺の生きもの観察会 | 藤井暁彦※ |
| | 地行浜周辺の夏の植物たち～植物観察会～ | 三笠裕子（ミカサコレクト） |
| | すごい昆虫を探して世界をまわる | 丸山宗利（九州大学） |
| | 深海の真価～海の恋人たち～ | 内野稜太（福岡工業大学附属城東高等学校） |
| | 夜の昆虫を集める方法 | 小藤佳紀（日本蛾類学会） |
| | 線虫ガン検査の発明と実用化 生物のふしぎを体験しよう | 広津崇亮（HIROTSUバイオサイエンス） |
| | 身近にみられるアリの多様さ～冬にも活動しているのかな～ | 細石真吾（九州大学） |
| | カブトガニ教室 | 高田浩二（元福山大学） |
| | キノコの世界の不思議 | 大賀祥治（元九州大学） |
| | 増える生きもの、減る生きもの | 中島淳（福岡県保健環境研究所） |
| | 川虫の生態と観察 | 高比良光治※ |
| | 福岡で楽しむ 超身の周りの昆虫たち | 伊東竜平（博多昆虫同好会） |
| 理科応援教室 | 身近な昆虫の標本づくり　（参加者を入れ替え2回講座） | 大城戸博文※ |
| | 手作り入浴剤を作ろう | 柳哮（元九州大学） |
| | 天気予報紙を作ろう | |
| | 単極モーターを作ろう | |
| | 割れないシャボン玉を作ろう | |
| | 葉脈しおりを作ろう | |
| | 静電気をためてびっくり百人脅し | |
| | 味覚について調べよう | |
| | ブロッコリーからDNAを取り出そう | |
| | 乾電池チェッカーを作ろう | |
| ラボで体験 | 野菜でスタンプ | 高島洋美※ |
| | カブトムシ博士になろう | |
| | ゴマをすり潰したらどうなるの | |
| | 光る食べ物を探ろう | |
| | 松ぼっくりツリーを作ろう | |
| | エコバッグに絵を描こう | |
| | 花を分解 花のつくりを観察しよう | |
| | ビー玉万華鏡をつくろう | |
| みんなでチャレンジ | 人工イクラをつくろう | 高島洋美※ |
| | 何のにおいかな | |
| | カブトムシ観察会 | |
| | 光るスライム | |
| | 種の形の不思議 | |
| カブトガニ観察会（カブトガニの成体を観察しながらの餌やり） | | 高島洋美※ |
| 連携講座 | 環境DNA学会と連携「日本の海にはどんな魚がいる？環境DNAで調べる魚類の多様性」（同じ参加者を対象に2回の連続講座） | 清野聡子（九州大学）、小林斎哉、八児裕樹（福岡市保健環境研究所） |
| | 「市科学館×まもるーむ福岡連携～風船でロケットを作ろう～」（参加者を入れ替え2回講座） | 田中久生、吉田宗可（福岡市科学館） |

※九州環境管理協会職員

（宮城県）、日本科学未来館（東京都）の各子供たちをWeb で結ぶ初めての試みで（**写真 2**）、その様子は、西日本新聞にも掲載されました。

このほか、福津市の手光ビオトープで行われた昆虫観察会（**写真 3**）や古賀市で行われた第9回ぐりんぐりんフェスタ「生物多様性ってなぁに?!」―昆虫の世界から見る生物多様性の危機―（**写真 4**）への講師派遣（講師：当協会職員の大城戸博文氏）、九州電力（株）の科学実験動画作成の支援等も行いました。

写真 2「環境 DNA で調べる魚類の多様性」講座の様子
（Web で他館とつないで、意見交換している様子）

写真 3 昆虫観察会への講師派遣
（福津市手光ビオトープ）

写真 4 講演会への講師派遣
（第 9 回ぐりんぐりんフェスタ）

## ３．２　地球温暖化防止活動推進センター

当協会は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第 38 条に基づき、2004（平成 16）年に福岡県知事より「福岡県地球温暖化防止活動推進センター」（以下「温防センター」という。）として指定され、現在、第 4 期目として活動を行っています。

温防センターでは、基本的な活動として福岡県の地球温暖化対策に関する「①情報提供」、例えばふくおかエコライフ応援サイト（Web）での情報発信、福岡県環境家計簿の作成・配布（**写真 5**）、情報誌「減 $CO_2$（げんこつ）クラブ」の発行等を行っています。また、幅広い世代を対象とした気候変動等について学ぶための講師派遣等の「②広報・啓発」（**写真 6**）、福岡県地球温暖化防止活動推進員等の「③活動支援」（**写真 7**）、気候変動等に関する県民からの問合せ対応等の「④照会・相談」（**写真 8**）、県内の温室効果ガス排出実態調査、ふくおかエコライフ応援サイトでの結果の公表等の「⑤調査・研究」、以上の 5 項目を軸に福岡県と連携して事業を展開しています。令和 2 年度の事業活動の概要は次のとおりです。

福岡県から受託した「エコファミリー応援事業実施業務」では、福岡県が開発した「ふくおかエコファミリー応援アプリ」[1]の登録者を募集するための広報、イベントを実施しました。また、環境省の「地域における地球温暖化防止活動促進事業」では、国民運動「COOL CHOICE」を若い世代に普及促進するため、イベント企画、サイエンスカフェ、出前講座等を実施しました。さらに、「福岡県省エネルギー相談事業」では、県内 70 事業所を対象に専門家を派遣して、設備の更新及び運用改善を支援しました。しかし、2 年度はコロナ禍の影響で環境イベント等は元年度に比べて激減しました（地域推進員連絡会 14 件→4 件、地域環境イベント 53 件→1 件、講師派遣出前講座 106 件→25 件、うちエコ診断 107 件→18 件）。

[1] 環境家計簿の電子版に相当するもので、スマホで電気・ガス・水道・ガソリン等の使用量を毎月入力するとその推移と排出 $CO_2$ 量をグラフで確認することができます。また、この入力やエコイベントへの参加、協賛店での食事や購入等でポイントがつきます。ポイントがたまるとくじを引くことができ、当たりがでれば福岡県内の特産品がいただけます。

写真 5 福岡県環境家計簿の表紙

写真 6 園児対象の地球温暖化に関する講座

写真 7 推進員による地域イベントでのブース出展

写真 8 高校生からの問合せ対応

### ３．３　エコアクション 21 地域事務局

エコアクション 21（EA21）とは、企業、学校、公共機関等が行う事業活動の中で、事業者自ら省エネルギー、省資源、廃棄物削減等の環境配慮に取り組む仕組みを企画、構築、運用する環境マネジメントシステム（EMS）の一つです。環境省が策定したエコアクション 21 ガイドラインに基づき、環境への取り組みを適切に実施している事業者を認証し、登録する制度が EA21 の「認証・登録制度」です。

当協会は、2005（平成 17）年に EA21 地域事務局 ECO-KEEA（エコ・ケア）九環協として承認・登録を受け、EA21 の「認証・登録制度」の手続きのサポートのほか、EA21 に興味のある事業者を対象としたセミナーの開催や出前講座等、各種サービスを提供しています。

EA21 ガイドライン 2017 年版の改訂にともない、新たな地域事務局制度が設けられ、既存の地域事務局（全国約 40 ヵ所）は事業区分に応じて 3 区分（基礎、普通、中核）に分けられ、区分に応じた権限・責任・要件等が規定されました。当協会は、これまでも九州地域の中核的な地域事務局としての役割を担っていましたが、新制度においても 2020 年 2 月に「中核地域事務局」としての要件適合・承認通知を受け、同年 4 月から暫定運用を開始しました。暫定運用の期間は 3 年間で、2023 年 4 月に正式運用の開始となっています。

令和 2 年度は、「中核地域事務局」として運営を開始した初年度で、約 460 事業者を所管し、新規・更新の認証・登録を行うとともに、基礎事務局仲介の新規・更新の認証・登録、普通事務局担当の新規・更新の判定業務を行いました。現在の判定委員会の対象は普通・中核事務局担当分 170 社（長崎・大分・鹿児島）と合わせて約 630 社となっています。

事業としては、EA21 の認証・登録を促進するため、福岡県・福岡市、佐賀県及び熊本県と連携した「自治体イニシアティブ・プログラム（IP）」や「関連企業グリーン化プログラム（GP）」を開催し（**写真 9**）、グループコンサルティングにより事業者の取り組みを支援しました。また、環境省が実施する EA21 $CO_2$ 削減プログラム（Eco-CRIP）に、元年度に引き続き九州・沖縄地域の担当地域事務局として参加しました。このような取り組みを通して、2 年度は新規に約 20 事業者の登録審査を実施しました。さらに、認証・登録事業者の EA21 の取り組みを一層支援するため、フォローアップセミナーを福岡、佐賀、熊本において開催しました。

新型コロナウィルス感染対策として、地域判定委員会は全てメール審議に変更しました。また、EA21 審査員力量向上研修会や EA21 研究会福岡（審査員勉強会）の多くは Web（Zoom）を活用して実施しました。EA21 普及・導入セミナー、福岡・佐賀・熊本各県における IP・GP 集合コンサルやフォローアップセミナーについては、緊急事態宣言期間中を避けて、マスク着用、手指消毒、3 密を避ける等のコロナ対策を徹底して会場で実施しました。

**写真 9 EA21 福岡 IP の実施状況**

### ３．４　九州グリーン購入ネットワーク事務局

九州グリーン購入ネットワークは、持続可能な社会の実現を目指し、企業・行政・消費者が連携して九州地域のグリーン購入の取り組みを促進するために設立されたものです。当協会は、平成 24 年 4 月から事務局を引き継ぎ、事業の企画を行う幹事会の定期的な開催や会員への GPN ニュースの発送等、事務局運営の強化を図ってきました。また、グリーン購入の普及啓発やその取り組みの拡大を図るため、対外活動として環境先進企業見学会や環境イベントへの出展、グリーン購入セミナーを例年開催しています。

令和 2 年度は、新型コロナウィルス感染症に係る緊急事態宣言等を踏まえ、幹事会をすべてメール審議に切り替え、企業見学会やイベントへの出展については中

止しました。また、2 月 17 日に予定していた「グリーン購入セミナーin 福岡」については本年度の 7 月 14 日に延期し、無事実施することができました（**写真 10**）。

**写真 10 グリーン購入セミナーin 福岡の実施状況**

## ４．今後の課題と展望

### ４．１　コロナ渦での公益活動

令和 2 年度は、新型コロナウィルスの感染予防対策として、公益センターがこれまで主催してきた対面による講座や講習会の多くは中止または延期せざるを得ませんでした。一方、数はまだ少ないながら Web（主に ZOOM）を利用した講座や講習会を主催し、トラブルなく開催できるスキルを習得することができました。しかし、参加者の中にはコンピュータや Web ソフトの使用に不慣れな方もまだ少なくなく、事前の接続チェックに時間を要し、また接続チェックがうまくいったとしても当日繋がらない等のトラブルが現在も散見されます。このように当日のトラブルで Web 参加ができなかった方には、別途説明会を実施する等のフォローアップも行っています。Web 開催は、会場の手配や当日準備、移動が不要なため、経費や時間の節約、$CO_2$ 削減に大いに貢献するため、これからも講座の内容、参加者のご意見も踏まえながら積極的に行っていきたいと考えています。

一方、公益センターで実施している講座の中には、子供たちを対象にしたものも多く、特に体験学習の Web での開催はその意義を考えると難しい面があると感じています。例えば、まもる一む福岡で実施している「見て、触って、感じて」等の体感を売りとする理科応援教室、ラボ体験等の実験ものの Web 開催は、実験道具の準備（郵送して参加者に送る？）、安全管理（各家庭で責任をもつ？）、他の参加者との一体感、感激度（味・匂い等は Web で伝えられない）等の課題が多く、現実的ではありません。近い将来、バーチャル技術の発展等で、これらの課題が解決される日がくるまでは、体験学習の多くについては、感染対策を徹底して、引き続き対面で子供たちに大きな感動を与えられるように尽力していきたいと考えています。

温防センターで実施しているブース出展については、地球温暖化にあまり関心のない方の呼び込みを目的の一つとしているため、福岡県のマスコットキャラクター（エコトン）等と一緒に（**写真 11**）、対面で温暖化防止活動を啓発するのが相応しいと考えています。もちろん、感染対策を徹底してのことですが。どこかでエコトンや啓発活動をしているセンター職員を見かけたら、是非お声をかけください。

**写真 11 マスクをしたエコトンとともに温暖化防止活動の普及啓発（イオンモール福津店イベントにて）**

### ４．２　デジタル化の促進

令和 2 年度のコロナ対応で、EA21 の審査業務ではデジタル化が進みました。これまで、審査書類の原稿は、審査対象の事業所ごとに印刷して判定委員会に諮られていました。コロナ禍で判定委員会がメール審議となり、これを機に審査書類の印刷を止め、PDF化してクラウド上で判定委員が閲覧できるようにしました。このことにより、年間 6 万枚ほどの紙の節約となりました。EA21 中央事務局からも、全ての申請・審査書類の電子化の方針が打ち出され、令和 4 年1月からはその運用が開始されます。

温防センターでは、前述のようにエコふぁみアプリの利用促進を行っています。令和 2 年度に福岡県で運用を開始したアプリですが、好評につき 3 年度からは「九州エコふぁみ」として沖縄を除く九州各県での利用が可能になりました。温防センターでは、このアプリ利用者に対して福岡県が実施した年 2 回のアンケート調査結果について、家族構成や住宅、使用燃料、地域等の違いによる $CO_2$ 排出量の差、経年変化等の解析を行っています。このように手軽なスマホアプリの利用により、各自の $CO_2$ 排出量の見える化、同時に温暖化防止への意識付け、統計解析による住民の行動変容の実態把握が可能となっています。温防センターでは九州の地域センターと協力して九州エコふぁみアプリの普及拡大を図っていく予定です。読者の皆様、是非エコふぁみアプリのスマホへのインストールと登録をお願いします。

### ４．３　グリーン社会の実現に向けての活動推進

2050 年カーボンニュートラル宣言を受け、地球温暖化対策推進法が改正され、令和 4 年 4 月から施行されます。地域地球温暖化防止活動推進センターの事業内容も見直され、センターの役割に事業者向けの啓発広報活動が加わりました。

温防センターでは、これまで一般家庭を対象にした啓発活動を主に行ってきており、事業者向けとしては省エネ相談、従業員を対象とした研修会での講師派遣等、その啓発メニューは限られていました。令和 3 年度は事業者向け啓発活動の手始めとして、ふくおかエコ事業所応援 book の大幅改訂を実施しました。中小企業の事業者が温室効果ガスの削減活動として取り組みやすい EA21 について、積極的に啓発していきたいと考えています。

家庭からの温室効果ガスの効果的な削減方法は、住宅構造の省エネ化、省エネ家電への買い替え、電気自動車への乗り換え、給湯設備の省エネ化等多岐にわたり、これらの普及啓発活動も強化していきたいと考えています。

### ４．４　講師・推進員・審査員等の後継者確保

公益センターの活動は、各講座の講師、温暖化防止活動の推進員、EA21 の審査員や判定委員等の先生方の並々ならぬご理解、ご協力によって成り立っています。各先生方の役割、対象者（幼児、小・中・高・大学生、大人、企業等）も実に様々で、必要な知識も幅広いものから専門性の高いものまで、幼児向け等、対応できる先生方の数はそれぞれで限られています。また、多くは平日のボランティアであるため、現役世代の活動は難しいのが現状です。

このような事情から、先生方の数がもともと少ない中、高齢化、後継者不足、昨今の環境意識の高まり等による対応件数の増大により、各先生方へのご負担が益々大きくなっている状況です。今後、早急に後継者の発掘・育成のための活動に尽力したいと考えています。

地球の未来、そして未来の子供たちのために、皆様のご参加、ご協力をお待ちしています。

## ５．おわりに

本原稿を書いている中、10 月 8 日には岸田文雄首相の所信表明演説が行われ、新内閣が始動しました。演説の中で、環境とエネルギー対策について、「2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、温暖化対策を成長につなげる、クリーンエネルギー戦略を策定し、強力に推進する」と述べられました。公益センターの役割は、未来を担う子供たちとその手本となる大人達の意識改革と行動変容のきっかけ作りで、地道な活動です。私たちのこの行動変容がなければ、2050 年カーボンニュートラルは夢の世界で終わるでしょう。

2050 年、著者は 90 歳、現実となったカーボンニュートラルの世界を是非体感してみたいものです。その時、気候変動は？　もっと難しい新たな問題が地球に迫っているのか？

**謝辞**：公益センターの活動は、関係する多くの方々のご理解、ご協力によって支えられています。お一人お一人のお名前をここに挙げることはできませんが、この場をお借りして皆様に心よりお礼を申し上げます。